

## 2 事前調査の方法

### 2-2 既存建築物の診断方法

#### 1) 下地チェックシート

##### ■ 建築物概要

建築構造	築年数	外壁種類
木造軸組・2×4	( )年建築・築( )年	モルタル・サイディング・他( )

##### ■ 胴縁材保持力チェック試験[重ね張り工法時のみ]

	測定位置	土台部	柱(土台部から300mm)	問題箇所の付近
1	北東出隅部	合 格 ・ 不 合 格	合 格 ・ 不 合 格	
2	北面中央部	合 格 ・ 不 合 格	合 格 ・ 不 合 格	
3	北西出隅部	合 格 ・ 不 合 格	合 格 ・ 不 合 格	
4		合 格 ・ 不 合 格	合 格 ・ 不 合 格	合 格 ・ 不 合 格
5		合 格 ・ 不 合 格	合 格 ・ 不 合 格	合 格 ・ 不 合 格

※保持力チェッカーが破断した場合を合格とする(保持力1000N以上)。保持力チェッカーが破断することなく、ビスが引き抜かれた場合は不合格とする。

※保持力チェッカーの使用手順については、NICHHA設計施工資料集外装リフォーム①木造編(P24、25)をご参照ください。

##### ■ 築年別による今後の対策

築年数	今後の対策
昭和56年以前	わが家の耐震診断を行い、耐震改修と合わせて不合格箇所の改修計画を立ててください。
昭和56年以降	胴縁材保持力チェック試験での不合格箇所は、既存壁をはがして柱や土台の確認を行ってください。その他の不合格箇所は、適切な改修計画を立ててください。

##### ■ 構造躯体(柱・梁・土台)などの目視確認[張り替え工法時のみ]

構造躯体(柱・梁・土台)などに胴縁保持力上の腐朽など問題がないか	あ り ・ な し
----------------------------------	-----------

##### ■ 構造躯体に、胴縁保持力上腐朽など問題があった場合の対処方法(具体的な手法を記入)


※外装リフォームは新築とは異なり、対象となる建築物の築年数や構造、地域などにより、その状態が大きく異なります。事前の現場調査は非常に重要なものとなります。